

こどもの命が輝く 平和な未来の為に
～紡いできた保育の実践と運動の歩みをこれからも～

九州合研ニュース No.4



第50回九州保育団体合同研究集会

福岡集会実行委員会

★記念講演・市民講座・分科会感想（3・4日開催分）

【記念講演】

●「池添先生のお話は、子どもの理解や手応えを感じる保育を考える上で、大変学びが多かった。大人は得てして子どもの「〇〇したい」をわがままと捉え、「甘やかしてはいけない」という保育（子育て）の呪いに左右されがちである。しかし、子どもにとって自分の「いま、〇〇したい」に応答的に応えてもらったという経験を積み重ねることが、次の発達につながることを学んだ。また、子どもの自我の発達の課題（宿題）について、K式発達検査の積木課題を用いた説明は大変わかりやすかった。

「〇〇ができる」という発達の見方ではなく、自我の育ちを大切にされた保育が、自我の誕生～自我の拡大・調整までつながることが段階的に理解できた。今後の子どもののかかわり方を見直す良い機会になった。ありがとうございました。

（鹿児島県 園長）

●「誰の為の保育？」「先の心配」ではなく、子ども達の「今」をしっかり叶えてあげる保育！との池添先生の言葉に強く感動しました。ありがとうございました！！

（福岡県 調理師）

【市民講座Ⅰ】

●『いつからでもやり直せる』って言葉がとても心強く感じました。今回のお話の中で『育てるのではなくて育つを支える』という言葉だったり『こどもと大人の向き合い方のコツなど』自分の子育てを振り返ると大人の自分主体で考えたり動いてしまったりしている事が多かったと感じさせられました。いつからでもやり直せるの言葉を信じて…これからはもっとこどもの気持ち・思いを大切に一番に考えられる子育てをできる親になりたいと思いました。あっという間の時間でした。ステキなお話ありがとうございました。

（福岡県 保育士）

●昨日より、引き続き池添先生の講演に参加させて頂きました。私は、現在園長と保育士を兼務して仕事をしていますが、家庭では娘と2歳の孫、主人と4人の生活ですが、子育ては、自分に生きざまそのものではないな～とつくづく実感しました。子育ては、いつからでもやり直せるんだ、娘にも育てないところ、孫にもですが、まだまだいやいや期真っ盛りです。先生の講演を聞いてほっとする自分が居たり、あ～これじゃいけないな～と考えさせられることばかりでした。これからは、職場でも家庭でもちゃんと向き合い、素敵な言葉「いつからでもやり直せる子育て」なんだ。気持ちをリセットして次のステップに向かい、自分も、今後の人生の中でこの言葉を活かした人生を送りたいと痛感しました。本当に素敵な講演有難うございました。

（宮崎県 園長）

●私の子育ては、遠い昔に終わってしまいましたが、今頃になりやらなければいけない宿題があり、実践途中でした。自分の実践が正しいかどうか不安でしたが、子育ては、何歳になってもやり直しがきくという事、先生ご自身の体験も聞き、背中を押して頂き勇気を与えられました。昨日から連日、池添先生の講義に出会えて心の洗濯が出来た事に感謝します。ありがとうございました。

（福岡県 事務職員）

●まだ子育てはしたことがないのですが、これからの子育てに参考になるお話でとても勉強になりました。今後役に立ちそうです。貴重なお話ありがとうございました。

（鹿児島県 保育士）

【市民講座Ⅱ】

●コロナ禍の煩わしさや猛暑の疲れがオカリナの奏でる音が心に響き癒され、パワーをいただきました。オカリナ演奏まだ聴きたかったです！個性を活かし笑顔で明日からまた、子どもたちと関わります！
(福岡県 保育士)

●自分の子育てを振り返ることができました。働きながらの子育てで、しておけばよかった。させてあげればよかった。と思うところがたくさんありました。子どもに話を聞くのではなく、子どもの話を聞きながらを職員みんなで意識し、明日からの保育に繋げていきたいと思います。オカリナの演奏が気持ちよかったです。ありがとうございました。
(福岡県 保育士)

●今日は、お二人の講座を聞くことができ、改めて考えさせられることがたくさんでした。保育者であり、2児の母である私ですが、もっと、子どもに優しくなりたと思いました。そして、もっともっと、子どもたちの話を聞いて、私自身がモデルとなれるように過ごしていきたいと思いました。大人同士がつながり、自分自身のことも聞いてもらうこと、分かってもらうことも大事だなと思いました。子どもの代わりに付き合う。大人の代わりに捨てる。頑張りたいと思います！
(熊本県 保育者)

●講座を受けている間、我が子、こども園のこども、先生、保護者等色々な人の顔が浮かんできました。今までを振り返り、考えたり、こうしていこうと改めて自分の中で意識することができたと思います。「発達」の宿題」を常に意識して、明日から子育て、保育をしていきたいと思います。ありがとうございました。
(鹿児島県 保育士)

●市民講座Ⅱを聴かせていただき、自分自身の保育の中での子どもたちの声かけや関わり方を見つめ直すことができました。“こんな子ども達になってほしい”という思いで良かれと思ってつい注意したり言い過ぎてしまうことがあり、今日の話聞いて確かに言われすぎると息が詰まるよなあ..大人でも苦手な事ってあるしつらいかもしれない..と反省しました。これからの生活では相手の良い面をたくさん見つけ共感し、自己肯定感を高めることができる保育を心がけていきたいです。コロナ禍の今、子どもも大人も生活に変化がありストレスを感じる人が多いと思います。親と信頼関係を築き、子どもの様子や悩みなど情報共有をしあいながら楽しく生活できるようにサポートしたいです。みんなで協力しあい、たくさんの経験をさせてもらいながら自分自身も成長し、子ども達のお手本として保育をしていけるよう頑張ります。オカリナ演奏、自分の幼少期や今と重ねながら聴き、とても心に響きました。たくさんの出会いや経験ができていく幸せや感謝の気持ちを忘れず、今後も生活していきたいです。山口先生、貴重な時間をありがとうございました。(福岡県 保育士)

【0歳児保育】

●この分科会で0歳児の一人ひとりを大切にするには、保育士が”こうしなければならない”と無理強いすることなく、子どもが自ら育とうとする力を信じ、大らかな気持ちで、子どもの意欲を引き出す保育と一緒に楽しむことが大切だということをみなさんで再確認できて良かったです！
(福岡県 保育士)

●0歳児は毎日の生活の積み重ねが、とても大切だなと改めて感じました。2本の提案の中で大人の願いや子どもの願いをどうくみ取って考えていくか、とても学びのある時間となりました。日頃の悩みや疑問に感じていることを先生方と意見交流できて良かったです。
(福岡県 保育士)

●思いが通じた、分かったよ。と思う瞬間がたまらないですね。また、提案の内容がわくわくする内容と、悩みを共有できたりと、貴重な時間でした。
(熊本県 保育士)

【3歳児保育】

●オンライン開催で、zoom操作の担当でもあったので不安や緊張もありましたが、無事に分科会が終わり良かったです。同じ悩みだったり、色んな話をする事ができ貴重な時間を過ごせました。

(福岡県 保育士)

●提案を聞き、語り合う事であらためて子どもが安心して過ごせる環境の大切さを学びました。“できない自分も好きになる”とても素敵な言葉だと思いました。

(鹿児島県 保育士)

【保・幼・小の連携と学童保育】

●初めて“保幼小の連携と学童保育”の分科会で提案をしました！小学校や学童クラブの先生方と話をして「私だけじゃないんだ」と感じ、たくさん学べました(^ ^)

(佐賀県 保育士)

●発表者の方の問題提起やグループでの協議を通して、幼保小連携・接続と学童保育の現状について、職員の方々の本音を知ることができて非常に学びの多い時間となりました。学童の先生方が、学童を辞めた子や小学校を卒業してからのその後の居場所についても考えられるという話を聞いて、子どもを真ん中にして試行錯誤しながら日々を過ごしているということは、幼保小、学童ともに共通していることを改めて知ることができて良かったです。協議の中では、幼稚園や保育所(園)、学童保育の職員が、こちらから出向いてでも小学校の先生と積極的に情報共有していく必要があるという結論に至っていましたが、実際は日々の保育や教育を実施するだけでも大変な現状があると思います。保育者として、そして一人の行政職員として、幼保小、学童保育、地域が持続可能な連携と接続ができるような仕組みを関係所管と協議しながら検討していきたいと感じました。

(福岡県 保育士)

【障がい児保育】

●久しぶりに他園、他県の園の様々な取り組み、工夫、悩み等のお話を聞くことが出来ました。保護者とはもちろん、保健所、療育センター、病院等との連携の大切さ、そしてその難しさも感じましたが、園や自分が、その子や保護者にとって安心できる人・場所となるよう努めていけたら…と思いました。

(福岡県 保育士)

【子どもの生活と身体づくり・運動】

●提案者の方の先輩に助けられた言葉や子どもの姿を通して行事を変えていった姿を通して保育士間の連携の大切さを改めて感じました。コロナ禍で、他園の方と話す機会が少なくなっていたので、他園の様子が聞いて参考になりました。

(福岡県 保育士)

●今回、九州保育団体合同研究集會に初めて参加させていただきました。人と人との繋がりが、この研修が充実したものになっていることを知り、保育に対する情熱を強く感じる事が出来ました。分科会では子どもの生活と身体作り、運動をテーマに討論する中で、乳幼児期からの身体作り、リズムや触れ合い遊びが咀嚼力などに繋がること、主体的な関わり、子どもの成長を共有し伝え合うことの大切さも改めて感じました。明日からの保育に実践していきます。ありがとうございました。

(熊本県 保育士)

【子どもの生活と美術・造形(えがく・つくる)】

●今回、身近なもの(豊かな自然)を大切にしたい植物の色水あそびが楽しく発展している提案をきき、改めて子ども達が自然に触れる経験を実践していきたいと思いました。又、描くことに苦手意識を持つ子ども達には、ペンや鉛筆で描くことにこだわらない表現方法や楽しかった経験を通して描きたくなる時期が来る、ありのままの姿を認めるということが印象に残りました。たくさんの気づきをありがとうございました。よろしくお願ひ致します。

(熊本県 保育士)

【異年齢保育】

●年齢に捉われずに、子どもの“やりたい気持ち”を尊重する保育の素敵さを再確認しました。大人が提案した活動、目的への取り組みを子どもに対して一方的に求めるのではなく、子どもが自分達で考えて取り組んで行けるような環境、関わり方を大切にしていきたいと思います。(長崎県 保育士)

●今回の分科会で、改めて子どもの主体性を尊重すること、“大人も一緒”に集団としての在り方を考えることの必要性を感じました。

また、今回の提案を通して、子ども1人ひとりを理解することの大切さを再確認出来たと同時に、このように提案を聞いたり討議したりする時間の良さを改めて感じました。(福岡県 保育士)

【乳幼児期からの平和教育】

●今、乳幼児期からの平和教育の分科会が終わりました。感想の第一声は「やっぱり、九合研はよか〜〜〜」です。保育や子育ての悩みや喜びを共有でき、互いを認め合い、次の機動力(課題)をもらえる。九合研は未来を紡ぐ大切な場所だと再認識しました。さて、本題の分科会の感想です。羽生提案からは、0歳児クラスの一人の子どもと保育者の関わりを通し、“子ども主体”を深く考えさせられました。子ども理解はその子の思いをわかろうとすることであって、その子の思いを掌握し、大人の思うようにすることではないということに気が付きました。子どもの内面は、ものすごく複雑である、すべてを理解しようとする子どもは息が詰まるのではないかという言葉が心に残りました。松岡提案では、二人の男児の間で起こる様々な出来事を中心に、保育者の保育観を掘り下げていく実践でした。ニワトリの死に直面した子どもと保育者が冷たく硬くなったニワトリの亡骸をそっと触る、死を知り、経験し、実感する姿がリアルに語られました。2本の提案を聞いて、保育は深い、でも楽しいと思いました。これからも平和を愛する心を育む平和教育を学んでいきたいと考えます。子どもたちに未来を届ける大人として。(福岡県 保育士)

【子育て支援とつながりづくり】

●“泥んこ遊び”に対し、「こんなに服を汚して。」と感じる保護者、「こんなにのびのび遊んだんやね!」と感じる保護者。この提案では、泥んこ遊びで汚れた服をどうするかという点で、関わる全ての人がプラスになる結果を生み出しており、こんな地域とのつながりがあるんだということを知ることができた。未だに続くコロナ禍で、孤立・時間貧困というワードが出ており、保護者も保育者も心の余裕がないのが現実であり、一人で悩まず周りに意見を求めたりつながりを求める、またそれを受け止めることが大切だと感じた。また、コロナ禍により制限されたり中止されたり、子どもたちが経験できることも少なくなっている。けれど、与えられた状況の中で何ができるか考え一歩一歩前に進んでいくことが今の私たちがすべきことだと思う。保護者や地域の方、つながりづくりができるのは私たち保育士である。保護者の日々の負担の大きさを理解することが必要だが、それが保育士の負担になっては意味がないため、社会全体が一丸となって子どものより良い保育ができるように考えていかなければいけないと思う。コロナ禍からいつ抜け出せるかわからないが、少しでも子どもたちに子どもらしい環境を経験させてあげられるようになればと思う。(福岡県 看護師)

※感想を送ってくれた皆さま、本当にありがとうございました。

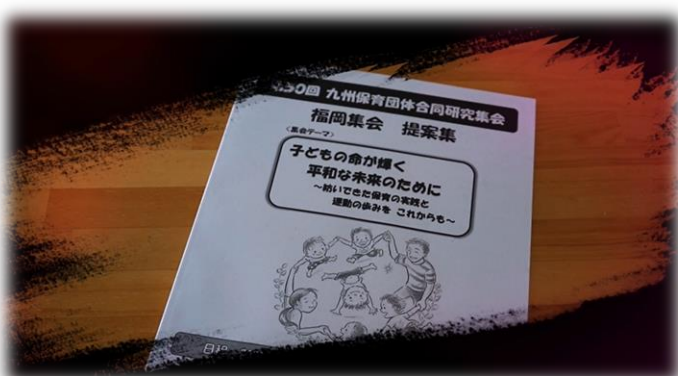
又、まだまだ講座・分科会等の感想は募集しています。

★閉会集会★

今回は初めてのオンライン開催でどうなる事かと思いましたが、無事に閉会式を終えることになりました。Zoomを使ったの分科会でも、議論も盛り上がりました。Zoomの操作が難しかなと思いましたが、参加者の気持ちが強かったので、自然と話が弾む（はZoom）事になったと思います。さて、次回の第51回九州保育団体合同研究集会は『鹿児島』でオンラインにて開催いたします。日程は2023年9月2・3日（一部分科会9月10日）です。



そして実行委員の皆さん、長い期間おつかれさまでした。



お知らせ

第32回福岡県子育て保育のつどい
オンライン開催

日時 2023年2月5日(日)

講師 清水 玲子 (元帝京大学教授)

☆「ちいさいなかま」の『保育、こんなとき
どうする？どう考える？』執筆中！